

令和元年度全国剣道指導者研修会（東北ブロック・山形県）



実技：ごく簡単な試合①

令和元年度全国剣道指導者研修会・東北ブロック《国庫補助事業》（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝山形県学校剣道連盟）は、11月30日、12月1日の2日間、三友エンジニア体育文化センターを会場に、中学校保健体育科教員21名を含む80名が参加して実施された。

本事業は、中学校武道必修化の充実に向け、全国の中学校において剣道の導入及び効果的な授業が展開されるよう、全国を9ブロックに分け毎年5ブロックで開催されており、本年度4ブロック目の研修会であった。研修会は9名の講師が参加し、講義と実技が2日間にわたって行われた。

■1日目（11月30日）

開講式終了後、藤田弘美講師の講義『中学校保健体育における武道（剣道）の学習について』が研修室にて行われた。藤田講師は授業づくりの考え方として、体ほぐしを活かした導入から、対人学習の基本動作や技の指導へ。そして、基本的な打ち方や打たせ方を段階的に指導し、攻防の展開に結びつける。そうすることで生徒の思考力や判断力などを育てていただきたいと説明した。続いて、神崎浩講師の講義『安全指導について』では、過去に発生した事故例などを通じて用具点検の必要性を説明した。安全管理は事故を未然に防ぎ学習効果を上げるため

に行う。そのためには、安全で清潔な学習の場（床）の確保、竹刀の都度点検、破損用具を使用しないことなど、保守管理をしっかり行うことが重要と締めくくった。花澤博夫講師による『体罰・暴力によらない指導』の講義では、褒めることが苦手だと生徒のよくない部分にばかり気が付いてしまう。まずは生徒の良さを認め伝えることで、学習意欲を引出す工夫が紹介された。

『剣道授業実践発表』では、山形県高島町立高島中学校の三宅祐介教諭から「地域指導者を効果的に活用するための授業形態はどうあるべきか」と題した発表が行われた。その中で三宅教諭は、事前に教員と地域指導者が綿密な打ち合わせをすることと、教員自身の指導力を向上させることが、よりよい授業につながると述べた。

午後は体育館で実技が行われた。『剣道授業における楽しい動機付け』では、軽米満世講師が剣道の歴史や特性を説明し、山神真一講師が『剣道授業における体ほぐしの運動』を紹介した。体ほぐしは対人で行い、相手の目を見て始めと終わりに礼をすることで、剣道の持つ特性を生徒に意識させて行うよう指導があった。次に行われた山田博子講師の『剣道の要素を感じ取らせる遊びの体験』では、グループをつくり、順番に竹刀で新聞紙切りなどを実践した。ソフトバレーボールを使った体験では、ボールの中



実技：剣道授業における楽しい動機付け

心を打つ、手首を柔らかく使う、姿勢を崩さないなどの点に留意しながら、ボールを弾ませてのキャッチボールが行われた。

『剣道に必要な動き作り』では軽米講師が、剣道の特徴である気剣体の一致や残心を意識した準備運動や発声、手刀を用いた体捌きを指導した。手刀での攻防では、体を大きく動かすため、生徒の運動量の確保ができるとの説明があった。次に『剣道具のない授業例(1)』として、花澤講師による礼法の実技が行われ、続いて、宮原昇治講師と神崎講師の『木刀による剣道基本技稽古法』を行った。休憩の後、藤田講師が参加者を8つのグループに分け、『剣道授業の現状と課題』の研究協議が行われた。最後にグループの代表者から発表があり、初日の研修内容が終了した。

■2日目（12月1日）

『剣道具のない授業例(2)』として、宮原講師・花澤講師・藤田講師による『竹刀による授業例』が行われた。基本動作に入る前には竹刀の点検をするなど、安全を確保してから行うよう指導があった。素振りや、相手の動きに合わせた基本動作の後、打ち方、打たせ方の段階的指導が行われた。

続いて佐藤義則講師により、先ほどの打ち方と打たせ方を音楽に合わせて実践する『リズム剣道』の指導が行われた。グループに分かれ、課題曲をもとに各々の動作を取り入れた練習、発表が行われた。課題曲とは別に、山形県にちなんだ花笠音頭のアレンジ曲を流して打ち方、打たせ方が行われると、馴染みのある音楽に参加者からは笑み

がこぼれていた。

次に、岩脇司講師による『剣道具の装着・置き方・扱い方・衛生管理方法』の説明が行われた。剣道経験のある参加者は、初心者に着装を教えた。中学生にとっては、見えない場所の紐を結ぶのが難しいことから、胴紐（上下）を前側で結ぶなどの工夫が紹介された。その後、参加者は剣道具を着装して、神崎講師の『剣道具のある授業例(1)』の実技指導を受けた。ここでは、初めて対人打突を行う参加者もあり、間合いの取り方や痛くない打たせ方の指導が行われた。

その後、山田講師による、『ごく簡単な試合①』として、判定試合が行われた。5、6人のグループに分かれ、試合の行い方や役割分担を決めた後、気剣体をもとに判定するよう指導があった。

昼食の後、佐藤講師による竹刀体操で体を温めてから、『剣道具のある授業例(2)』が行われた。応じ技、応じ技を使った練習試合の順で進み、約束稽古が行われた。休憩の後、打ち込み練習、自由練習が行われ、全ての実技が終了した。

講義『指導と評価』では、岩脇講師が「一方的な一斉指導だけでなく、お互いの学び合い活動をしっかりに行わせ、生徒に新しい考えを持たせるような場を作るように」と参加者に呼び掛けた。



実技：自由練習

閉講式は、参加者を代表し、山形県金山町立金山中学校保健体育科教諭の伊藤徹氏に修了証が授与された後、佐藤講師が講評、竹田隆一山形県学校剣道連盟会長の主管県挨拶、軽米講師が主催者挨拶を行い、全日程が終了した。